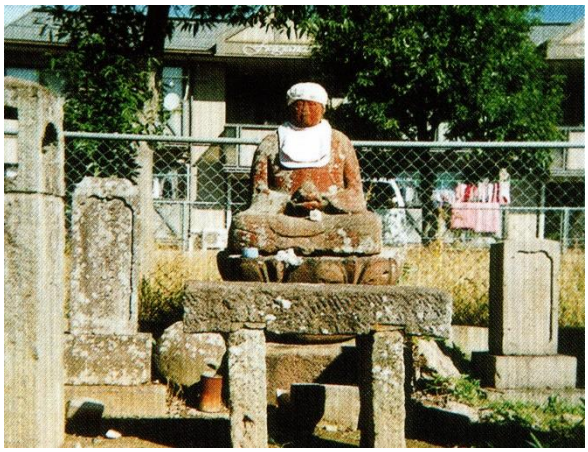

北原赤地蔵尊

北原の刑事場（処刑場）跡～葬祭場（屋外用）跡と赤地蔵尊

刑事場から葬祭場跡

昔の下町（現北原区第三組）旧北国街道沿い吉松屋北側から藤牧へ通ずる市道東方へ約 70m の北側に、延面積約 51.8 坪（約 171 ㎡）の広場がある。現在北原区の共同墓地となっている。昔（武家政治時代）斬首の極刑で処刑が施行されたといわれ、別名「刑事場」ともいわれている。なお現在、打ち首になった首を「さらし首」として並べたという尺五の芝石〔巾 1 尺（33cm）長さ 5 尺（165cm）〕の台座が改修されて足付きで残っており、現在赤地蔵尊参拝の線香置台に代用されている。古老の言によれば、明治初期から昭和 10 年（1935）頃で、北原共同墓地使用者（現北原霊苑会員）の屋外用葬祭場として使われ、この広場で立棺を中央に据付け、遺族の男性は黒紋付で、素足でわらじを履き、女性は白装束で素足にゾウリ履きで共どもに中央の棺の周囲を左回りに 3 回回り、菩提寺の住職が読経し続け、最後に住職が小さな木製の鍬を棺に投げて引導（三途の河を無事に渡るよう）を渡し、葬祭が終り、その後分署の横の共同墓地に埋葬されたと見聞している。現在の告別式場と同様である。

赤地蔵尊のいわれといきさつ

赤地蔵尊は町内にも多数散在しているが、概ね宝暦年代に建立された地蔵尊が多いことから、この北原共同墓地にある赤地蔵尊も宝暦（1751～1763）年代に建立されたものと思われるが、作者も建立者も定かでない。しかし、北原区の人と思われるが、いつとはだれとは頼まれたわけでもなく引継がれてきて、新しい赤い頭布と赤のよだれかけが、春先になると取替えられて今日まで続いている。言うとはなしに「北原の赤地蔵さん」の愛称で親しまれ、崇められてきた。

こんないきさつからこの広場が、昔の刑事場（処刑場）として格好の広場となり、刑事場と呼ばれたのではないかと思われる。

また「赤地蔵さん」にお参りし、自分の体の悪い部分を撫ぜ、その手で赤地蔵さんのその部分を撫ぜると、いつの間にか痛みがとれ、直るといわれている。また、子ども達が赤地蔵さんの頭を撫ぜ、その手で自分の頭を撫ぜると勉強がよくでき学問がよくできるようになるなど、ご利益があると言い伝えられ、現在も春秋のお彼岸をはじめ、8 月のお盆・年始（新年）参りなど機会あるごとに、親子連れでお参りする人達が列をなす盛況ぶりである。

この赤地蔵さん前広場が、ゴムマリでの三角ベース、女の子は、ケンケン遊びなど、格好の子どもの遊び

場でもあった。

現在、駐車場に活用された、平成 15 年から、本来の共同墓地として旧 8 戸分と新規 23 区画、計 31戸分の北原共同墓地として活用されている。

（出典：川中島町北原区の「ふるさと歴史探訪」P.P.92-94 より一部抜粋）